

I. 人流・物流を支える交通ネットワーク・拠点の整備

1. 奈良県の道路整備

奈良県道路整備基本計画

奈良県では、「何のために」「どのような」道路を整備するのかを示す『整備すべき道路のあり方』などから構成される、5箇年の道路整備の方向性を示した「奈良県道路整備基本計画」を平成26年7月に策定(令和6年10月に2回目の改定)しています。県土の骨格を形成すべき特に重要な路線網である「骨格幹線道路ネットワークの形成」や、明確な目的を定め、本県経済の進展に対応した「目的志向の道路整備の推進」、近年の大規模自然災害の増加などから「安全・安心を支える道路整備の推進」に取り組みます。



骨格幹線道路ネットワークの形成

県土の骨格を形成すべき特に重要な路線網を「骨格幹線道路ネットワーク」と位置づけ、重点的に整備を推進します。

- 主な骨格幹線道路ネットワーク
京奈和自動車道、国道24号、国道168号、国道169号、(都)城廻り線など



▲京奈和自動車道(大和御所道路)



▲(都)城廻り線



▲奈良県道路整備基本計画はこちら

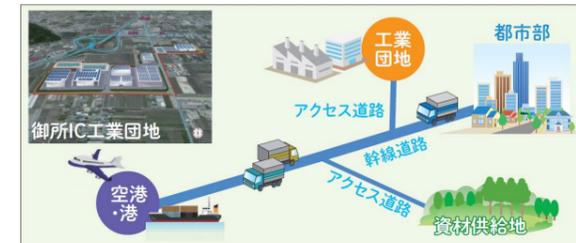


▲ならの道はこちら

目的志向の道路整備の推進

▶ 企業立地を支援する道路整備の推進

- 骨格幹線道路ネットワークから産業集積地への良好なアクセス道路の確保



▲企業立地の促進を図るうえで目指すべき道路ネットワークのイメージ

■通勤・業務での移動の円滑化



▲渋滞緩和に向けたハード対策(国道24号 葛本町交差点)

▶ 観光振興に資する道路整備の推進

- 観光地へのアクセス性の向上
- 観光地間の周遊の促進
- 観光地内の回遊の促進



▲みたらい渓谷と洞川温泉街へのアクセス



▲「ジテンシャでなら」奈良県自転車利用総合案内サイト



▲観光案内サインの設置

▶ まちづくりに資する道路整備の推進

- 道・駅・まちの一体的なまちづくりの支援
- 公共交通の利便性の向上
- 生活空間における道路環境の整備



▲京奈和自動車道(仮称)奈良ICとJR新駅の交通結節点機能を活かしたまちづくり



▲自動運転車両を用いた移動支援サービス(明日香村実証実験)



▲無電柱化(イメージ)

安全・安心を支える道路整備の推進

- 災害に強い道路の整備
- 計画的な維持管理の実施
- 暮らしを支える交通安全対策



▲法面对策(国道169号 下山村上池原)



▲ならの道 リフレッシュプロジェクト



▲歩行空間の確保

I. 人流・物流を支える交通ネットワーク・拠点の整備

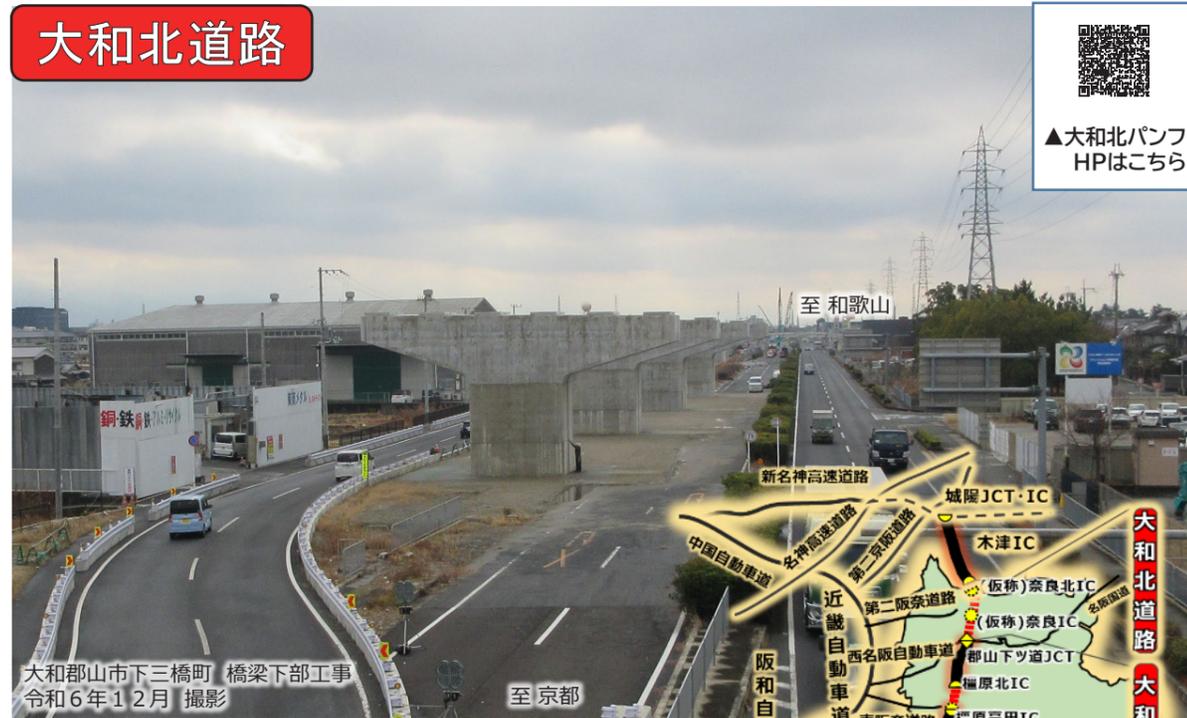
2. 京奈和自動車道の整備

京奈和自動車道は、京都～奈良～和歌山を結び関西大環状道路の重要な路線のひとつであり、関西都市圏の発展を支える高規格幹線道路として、全体約120kmのうち、現在約88kmが供用しています。

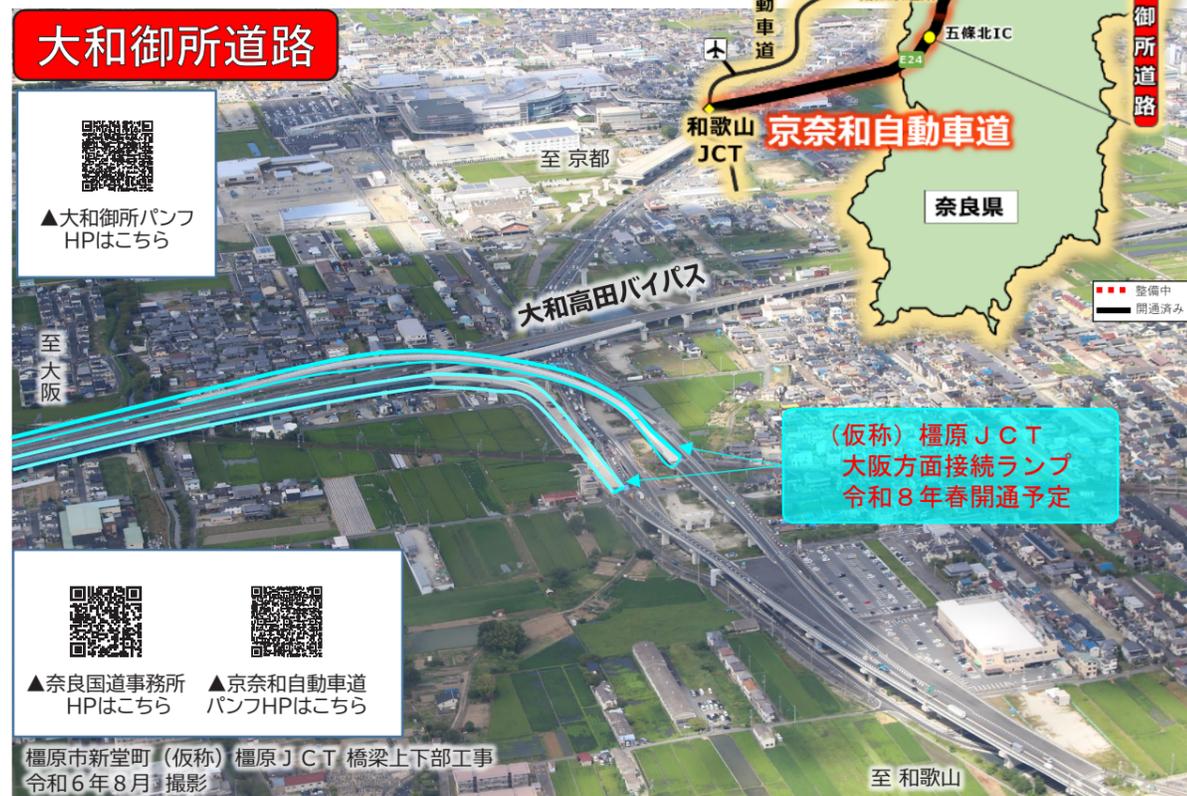
奈良県内における未整備区間約17kmについては、国土交通省とNEXCO西日本により整備が進められています。

奈良県では、早期全線開通に向け、沿線市と協力し、地元や地権者との調整に協力するとともに、整備促進を国に働きかけています。

大和北道路



大和御所道路



JR新駅の設置と鉄道高架化

(仮称)奈良IC周辺[(都)西九条佐保線等]の整備及びJR新駅周辺のまちづくり

京奈和自動車道の(仮称)奈良ICに直結するアクセス道路であり、まちづくりの骨格となる(都)西九条佐保線や(都)大安寺柏木線の整備及びJR関西本線の鉄道高架化、新駅設置を推進します。また、(仮称)奈良ICとJR新駅による交通結節機能を活かしたまちづくりに取り組みます。

【令和7年度事業内容】

TOPIC

JR関西本線鉄道高架化

・高架工事を推進します。

(都)西九条佐保線

・用地買収、橋梁下部工事を推進します。

(都)大安寺柏木線

・用地買収、改良工事を推進します。

JR新駅周辺のまちづくりの推進

・奈良市と連携して、市南部の新たな玄関口として相応しいまちづくりを推進します。



▲(仮称)奈良IC・西九条佐保線(完成イメージ)



▲JR新駅周辺



▲南大安寺踏切付近(高架工事施工状況)

“こんな体験できる!!” 若手職員の声 (道路建設課(入庁5年目))



私は主に都市計画道路の整備及び鉄道高架化の事業に携わっています。鉄道高架化により踏切が除却されることで踏切事故や地域分断の解消にもつながり、併せて実施される道路整備により奈良市中心市街地へのアクセス性が向上します。左の写真はR6年4月に実施した仮線への切換状況です。当日は、一晩で現在線から仮線への切換をおこないました。約700人での作業と非常に大がかりな作業に立ち会うことができ、貴重な経験となりました。

I. 人流・物流を支える交通ネットワーク・拠点の整備

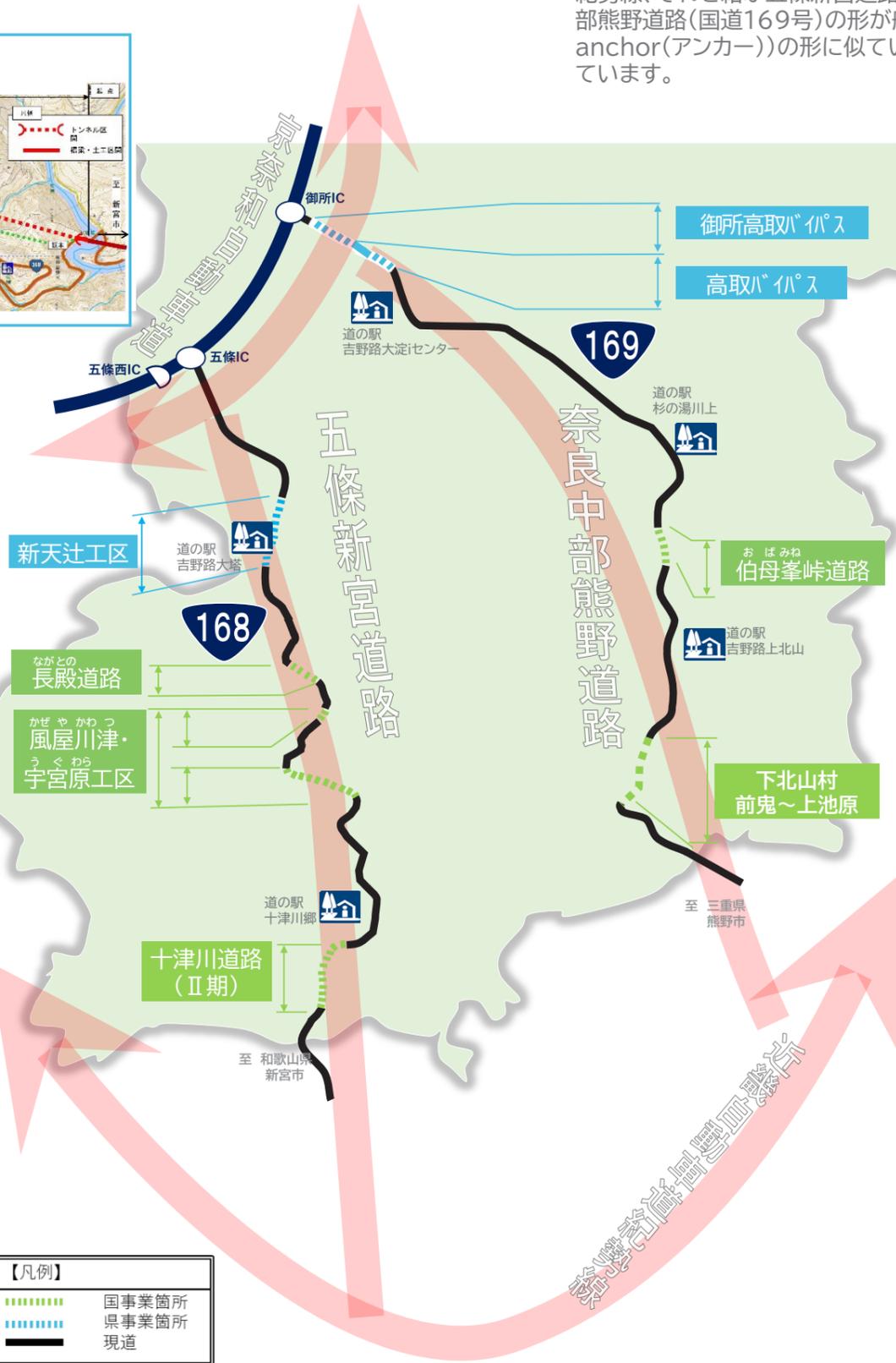
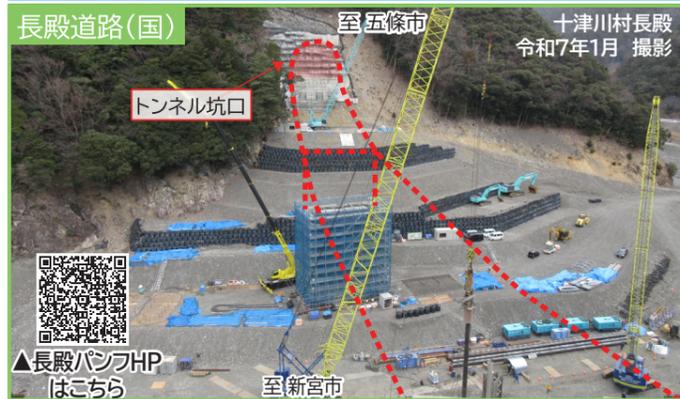
3. 紀伊半島アンカールート

国道168号及び国道169号の整備

県南部地域の防災機能向上及び地域活性化を図るとともに、近い将来発生が危惧される南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対応力の強化を図るため、国と県で連携して「紀伊半島アンカールート」の早期整備に取り組んでいます。

紀伊半島アンカールートとは…

紀伊半島の骨格となる京奈和自動車道、近畿自動車道紀勢線、それを結ぶ五條新宮道路(国道168号)、奈良中部熊野道路(国道169号)の形が船の錨(イカリ: anchor(アンカー))の形に似ていることから呼称されています。



【凡例】
 ● 国事業箇所
 ● 県事業箇所
 ● 現道

I. 人流・物流を支える交通ネットワーク・拠点の整備

4. 大和西大寺駅・平城宮跡周辺の渋滞踏切の解消に向けた取組

交通事故の防止・交通の円滑化

▶ 踏切道改良計画の策定

大和西大寺駅及び平城宮跡周辺では、以前より踏切による渋滞が課題となっていました。平成29年1月に大和西大寺駅西側の4踏切道、平成30年1月に大和西大寺駅東側の4踏切道が踏切道改良促進法に基づく改良すべき踏切道として指定を受けました。

これを受け、奈良県・奈良市・近畿日本鉄道株式会社の3者での協議を経て、令和3年3月に合意し、踏切道改良計画を策定しました。



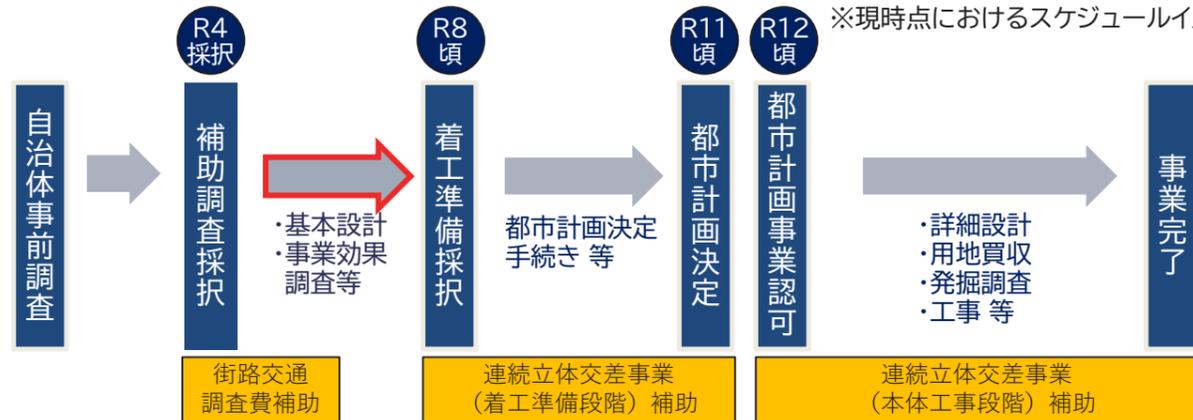
▲改良すべき踏切道として指定を受けた踏切の一例
(菖蒲池第8号踏切)



▲大和西大寺駅及び平城宮跡周辺の様子

連続立体交差事業

※現時点におけるスケジュールイメージ



踏切道改良計画では、抜本対策として、連続立体交差化することにより踏切道の除却を行うことを想定しています。

連続立体交差事業とは、鉄道を連続的に高架化・地下化することで複数の踏切を一挙に除却し、交通の円滑化と、都市の活性化を推進するものです。それにより、踏切の除却等による交通渋滞の解消、踏切事故の解消、鉄道で分断されている市街地の一体化による地域の活性化といった効果が期待されます。

令和7年度事業内容

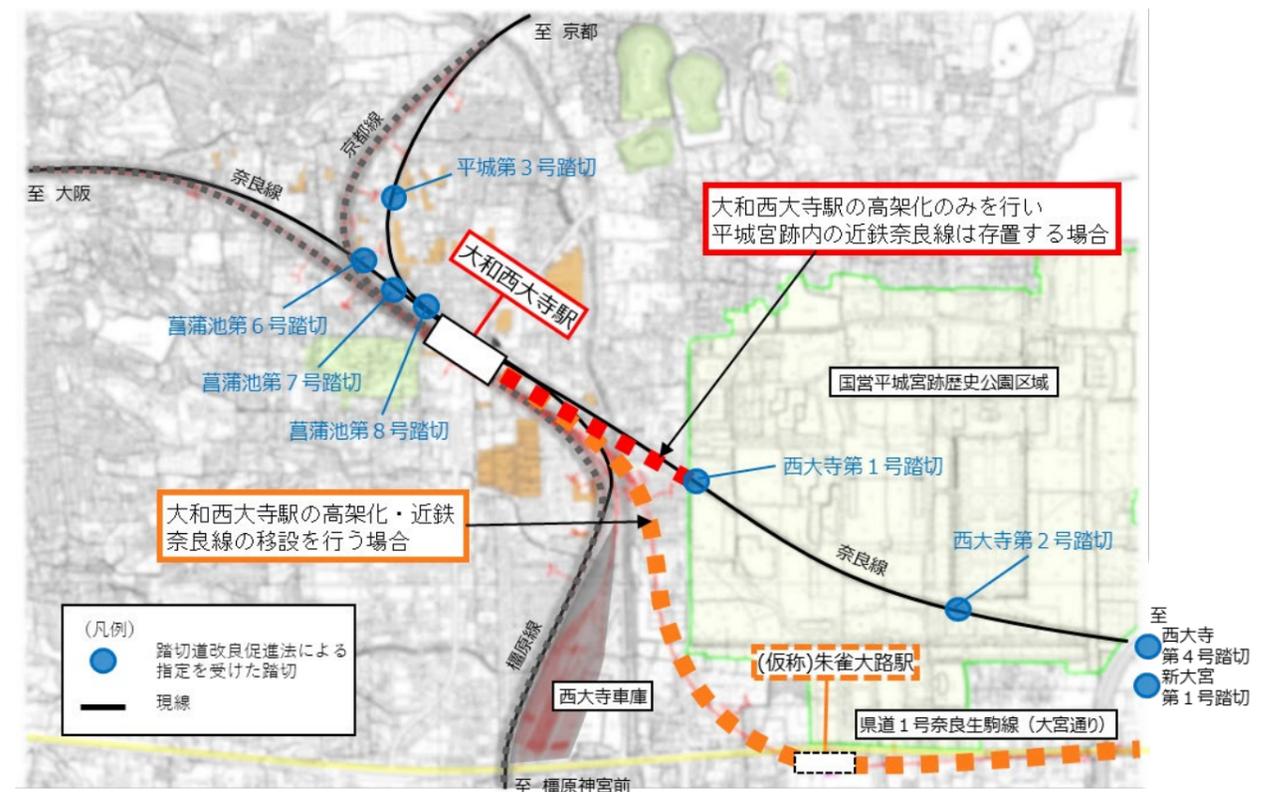
TOPIC

大和西大寺駅の高架化事業については、同駅周辺の「開かずの踏切」解消のため、引き続き、積極的に事業を推進します。

▶ 具体的な取り組み

- ・「大和西大寺駅の高架化及び近鉄奈良線の移設を行う事業案」と「大和西大寺駅の高架化のみを行い平城宮跡内の近鉄線は存置する事業案」又は、それ以外の方法についても県、市、近鉄の3者で協力して検討を進めていきます。
- ・3者で協議の上、整備方針の決定を目指します。

<大和西大寺駅周辺地区の線形イメージ例>



※図示する線形・駅等は、イメージであり確定していない。

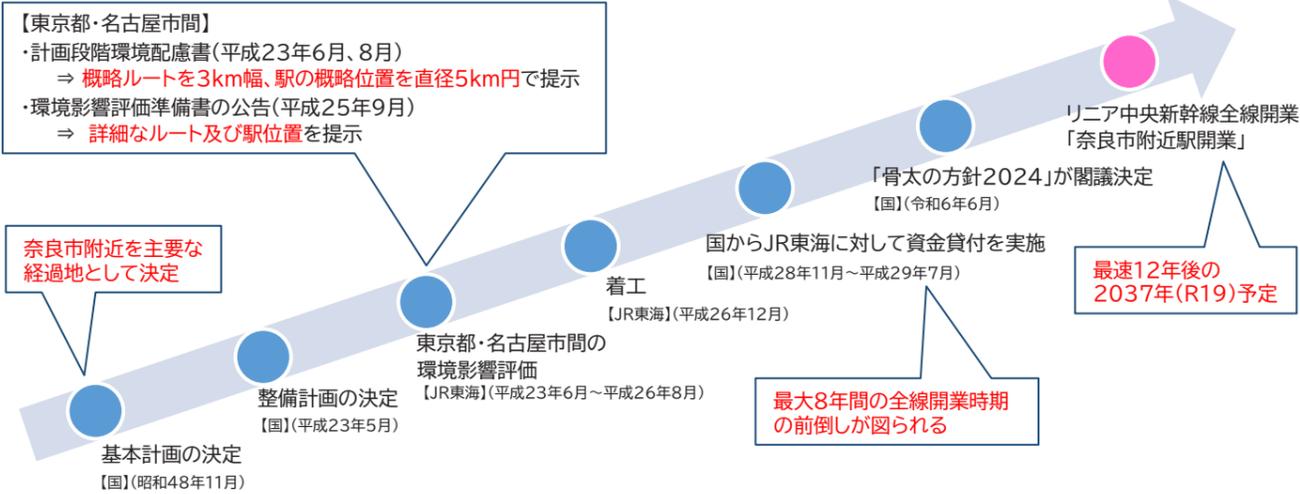
I. 人流・物流を支える交通ネットワーク・拠点の整備

5. リニア中央新幹線「奈良市附近駅」の早期確定

リニア中央新幹線の全線開業へ

▶ 三重・奈良・大阪ルートの早期実現に向けた取組

リニア中央新幹線は、東京都から甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市附近、奈良市附近を經由し大阪市までの約438kmを、我が国独自の技術である超電導リニアにより結ぶ新たな新幹線です。



本県の基本姿勢 ▶ 「奈良市附近駅」の早期確定に向け、全面的に協力・推進

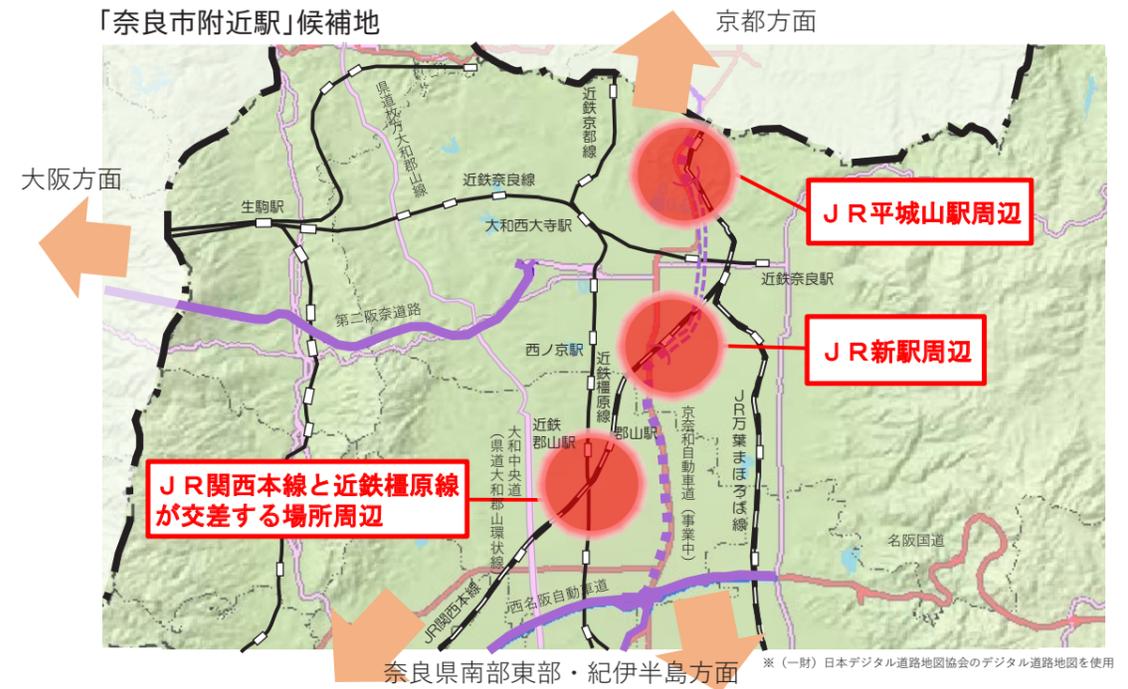
- リニア中央新幹線の大阪までの全線開業、そして「奈良市附近駅」の設置は、本県の新たな発展の基軸となるものです。
本県は、リニア中央新幹線の整備促進と「奈良市附近駅」の早期確定に向けて、全面的に協力・推進していきます。
- また、リニアの整備効果が、観光・経済面など広範にわたって県内全域に及ぶよう検討を進めます。

令和7年度事業内容

- ▶ 2023年12月にJR東海が名古屋・大阪間の環境影響評価に着手したと公表されたことを踏まえ、令和7年度も調査・検討や、要望活動・広報活動を引き続き実施しています。

TOPIC

・リニア中央新幹線の整備促進に関する調査・検討



コラム 要望活動・広報啓発活動

●要望活動・広報啓発活動

法に基づく整備計画の通り、「奈良市附近駅」の位置及び三重・奈良・大阪ルートの早期確定に向け、三重県・大阪府の行政や経済団体等と連携しながら、国・JR東海等関係機関に対する要望活動、建設促進に向けた広報啓発を行っていきます。



▲リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会総会(令和6年9月2日)



▲まちびらきイベントでの啓発活動



▲くわしくはこちら